

栃木スケート国体あす開幕

I-H 青森成年V狙う

第77回国体冬季大会スケート・アイスホッケー競技会は24～30日、栃木県日光市で開かれる。青森県勢はスピード、アイスホッケー、フィギュアに選手、役員ら85人が参加。来年の地元でのスケート・アイスホッケー競技会に弾みをつけるためにも、天皇杯（男女総合得点）で昨年（11位）を上回る成績を目指す。県勢の行方を展望する。

◇スピード（25～28日・日光霧降スケートセンター）少年女子は先の全国高校総体で2種目入賞を果たした下村璃々（八戸西高）に中距離で3年連続入賞の期待。同男子は佐々木海地（同）が長距離で上位を目指す。成年男子は毛利信太郎（八戸西高・明大）、同女子は前中香澄ら八学大勢が入賞を狙う。

◇アイスホッケー（26～30日・日光霧降アイスアリーナほか）前回5位の成年は県内実業団、関東の県出身大学生、アジアリーグ経験者らで編成。運動量が豊

富な20代が半数以上を占め、頂点も狙える布陣だ。北海道との対戦が見込まれる準々決勝を乗り越えられるか。少年は直前のインターハイで8強入りした工大一高メンバーが中心。インターハイ4強の埼玉栄単独チームの埼玉とぶつかる準々決勝が最初のヤマ場で、前回（5位）を上回りたい。

◇フィギュア（24～28日・日光霧降アイスアリーナ）66回大会以来の出場となる成年女子は、先月のインカレ2位の渡辺倫果（青森山田高・法大）が国際大会のため出場を見送り、廣谷帆香（工大一高・岩手大）と藤田海羽（八戸高・慶大）の2人で挑む。少年女子は聖前栞乃華（工大一高）と本田望結（青森山田高）の2人が、都道府県対抗で3年ぶりの入賞を目指す。（向屋敷萌）